

7. 酪農教育ファームの取り組み

近年、日本では、農業の持つ多面的機能を見直す動きが全国的に強まっており、人々に牧場や農場を開放する農家が増えています。

なかでも、牧場・農場にある様々な資源を教育的に活用する「酪農教育ファーム」活動が活発化しており、それらを行う牧場・農場が、2002年から学校で導入された「総合的な学習」や「子どもの心や生きる力を育む教育」の場として活用できるという観点から、教育関係者を中心に高い評価を得るようになってきました。

このような時代の流れを受け、中央酪農会議の提唱により、1998年7月、日本における酪農教育ファームの普及・推進を目指し、教育関係者と酪農関係者の協力によって、「酪農教育ファーム推進委員会」が設立されました。

設立後、教育ファーム先進国であるヨーロッパの取り組みの研究や、国内における酪農体験学習事例の調査や研究等、様々な研究・検討活動を行い、2001年1月には、安全・衛生管理や教育能力が適正なレベルに達している牧場を“教育を行うのに適正な牧場である”と認証する「酪農教育ファーム認証制度」を創設しました。

制度創設の2000年度（平成12年度）に116であった認証牧場は2014年度（平成26年度）に全国で293牧場にまで拡大しました。また、2008年度（平成20年度）からは、教育ファーム活動を行う人（ファシリテーター）の認証も追加し、このファシリテーター数は2014年度（平成26年度）に575名となっています。

教育ファームの先進国であるヨーロッパから遅れること約30年、日本で「教育ファーム」が誕生したわけですが、この「酪農教育ファーム認証制度」は、他の農業に先駆けて、日本で初めて創設されたことから、関係者から大きな注目と期待を受けています。

また、広く一般に「酪農教育ファーム」が認められるということは、酪農という仕事やそこから生み出される牛乳乳製品の持つすばらしさを人々に理解していただく機会が増えるということにもなります。

そして、受入を行うことによって「訪問者の心を豊かにすること」ができれば酪農の社会に対する貢献度が一般に認知され、酪農家も、今まで以上に自分の仕事に誇りが持て、毎日の労働の励みにもなります。

教育界でも、新しい教育のあり方について色々と試行錯誤されていますが、こうしたなかで、この認証制度の創設は、現代の子供たちにとって本当に必要な教育の一つの形を提案することになると思われます。

今後、酪農経営の個性化と多様化が進み、農業の持つ多面的機能が社会的に評価されるようになっていくなかで、「酪農教育ファーム」を目指す牧場・農場は、確実に増加してくると思われます。

